

たものではないということを確認しております。また福祉事業に限らず、すべての事業の財源には市民の皆様からお預かりしている税金が充てられていることから、仕組みとして支出が減れば、その結果、市民の皆様の御負担が減るということをお伝えしたかったものということをお願いしております。福祉制度そのものを否定する趣旨で発言したものではありません。

<回答に対する千一の再質問>

差別的意味を持って発言したのではないのは当然のことです。これが差別的意味があるなどと言うならば大変なことになります。

しかし、この不幸という言葉を受けて、介護を受けている方は、私も含めて不快に感じ、傷ついたことは確かです。もしもあなたが何々だから不幸ねとまじめに言われ、それをそのまままじめに受け止めたならば、だれでも不快を感じ、傷つく人が多いと思います。こういうことに気がつかないこと自体が怖いのです。

介護は受けたくて受けている方などだれもいません。そこに負担という二文字が出てくることこそおかしいのではないのでしょうか。もしあなたが介護を受けたくなくても受けざるをえなくなって、それが負担だと言われたらどんな気持ちになりますか。税金とは助け合いの精神からあるのだと思います。道をつくり、ある時には建物をつくり、下水道を整備し、自然保護もやり、その中に福祉制度もあり、そして介護制度もあります。それを負担というなら、税金を使うものは全部負担になってしまいます。もし福祉制度や介護制度だけを負担だというのなら、弱者切り捨て以外の何ものでもありません。それも怖い一つなのです。いかがですか。

<兵藤芳朗 副市長からの回答>

仕分け人であるから、どのような発言をしてもかまわないというのは私は決してそういうふう

うには思っておりません。御指摘のあった発言の趣旨でございますが、経営企画部長がさきに答弁させていただいておりますが、差別的な意味を持って発言したのではない、ということを受け止めさせていただき、また御本人にも確認をさせていただいております。

ただ、話をする場合、相手の立場を十分考えて発言すること、これは話をする場合の基本的なルールだと思っております。ですから、その辺については、そういうルールにのっとって話をする、発言をするというのはこれは我々は考えていかなければいけないというふうには思っております。

<松尾崇 市長からの回答>

私自身も仕分け人だからといってどんな発言をしてもいいということは決してそういうふうには思っておりません。いま副市長からの答弁もありましたけれど、その発言を聞いて不快に思われる方がいらつしゃる、そういうこともしつかりと考えて発言をしていくということとはとても重要なことであるというふうに思っているところでございます。

今後も、性別や年齢、そして介護や障害の有無などにかかわらず、どのような人も当たり前前に社会の中に参加してともに支え合える地域社会の形成を目指して、本市としても努力をしてみたいと考えております。



この「一般質問」を終え、私には次のような疑問が残りました。この「不幸」の発言をされた方は、《ご自身に「不幸に親御さん」と言われるのでした。それでは、いかがですか。》

千一 (せんはじめ) の議会における HOW TO (Q & A)

Q. 言葉がしゃべれない千一は、どうやって質問するの？

A. あらかじめ質問の文章を提出しておき、代読していただきます。

Q. その文章はどうやって書くの？

A. 「音声キーボード」を、左足の親指で叩いて、書き取ってもらいます。疲れて目が見えなくなると、書き取り者の手に、ひらがなで、一文字ずつ、足で書くのです。

Q. 足で?! 時間がかかるでしょうね。

A. 膨大な時間と労力がかかります。足が疲れると、読み取りにくくなり、一文字を理解するのに、何分もかかることも……。

Q. だれが書き取るの？

A. 特定の人を定めていません。過去10年間を通じて「手伝ってみようかな」というボランティアの方々が、声をかけてくださいます。文章は、千一が作ります。

Q. 「影の指導者」とかがいるのですか？

A. いません。大学時代や長いつきあいの友達、恩師たちが応援協力してくれますが、この人たちの多くは、藤沢市民、横浜市民です。普段は、一人で活動します。

Q. 登庁も一人で？

A. はい。毎朝、2時間、介護のヘルパーに来てもらって、朝食や歯磨きの介助をもらうのですが、登庁の日は、スーツを着せてもらっています。

Q. お昼はどうするの？

A. 毎日、昼の1時間、ヘルパーに来てもらう